



「Sulang」はパラオ語で「ありがとう」という意味です。(私が置かせていただいている環境に感謝を込めて)

日本では新年度がスタートして、新しい生活を楽しみつつ、慣れるのに戸惑ったりという感じでしょうか。パラオの学校では卒業が6月、新年度のスタートが7月です。そのレポートは、その時期が来たら報告させていただきます。今回は学校でピクニックに行ってきたので、その様子をお届けしたいと思います。

## 〇スクールピクニック

私が派遣されているベラウ・モデクゲイ・スクールは全校生徒 25 名と小規模で、ピクニックには全生徒が参加しました。ピクニックと言っても、私が住むバベルダオブ島という本島の最北端からボートで15分ほどのガーケラウ島という無人島に1泊2日で行ってきました。日本という修学旅行のような感じです。

遠浅の白い砂浜が広がり、潮の満ち引きによってビーチが現れるその島は、まさに絶景ポイントで現地の人とでしか行くことができないような場所だと思います。

島での過ごし方は、タイムスケジュールが決められている訳でもなく、海水浴をしても、島を探索しても、魚を釣りに行っても、昼寝をしても、何か食べても、自由にゆったりとした時間を過ごします。パラオの人々は時間に縛られすぎない過ごし方をしている印象を受けますが、まさに時計を気にせず、気の向くままに過ごす、ゆっくり時間が流れていました。

私も日中魚釣りに連れて行ってもらったり、食事を堪能したり、干潮で現れたビーチを歩いて隣の島に渡ったり、お話ししたり、リラックスした時間を過ごすことができました。

絶景が広がる陰でビーチには多くのプラスチックごみが流れ着いています。そのごみの多くはパラオ由来ではないでしょう。ピクニックの終わりには生徒達はごみを拾い集めて、短時間で大きなゴミ袋5袋がいっぱいになりました。色々なことを考えさせられます。

